

JAPAN GOLF ASSOCIATION

JGAGolf Journal

ジェイシス

「J-sys」

JGAハンディキャップを取得して
「J-sysゴルフ選手権」を目指そう

特集1

第1回 JGA杯 J-sysゴルフ選手権

特集2

第2回 アジアンアマチュアチャンピオンシップ
日本でアジアアマチュア最高峰の大会開催!



財団法人 日本ゴルフ協会

第1回 JGA 杯 J-sys ゴルフ選手権

JGA主催で初のアンダーハンディキャップ競技が開催される。競技ゴルフの楽しさをトップアマでなくても味わえるようになるのだ。

アベレージゴルファーに朗報だ。JGA主催のアンダーハンディキャップ競技、JGA杯 J-sys ゴルフ選手権が12月に相模カンツリー倶楽部で開催される。その詳細を諸戸精孝ハンディキャップ委員長、野村惇競技委員長の2人に聞いた。



財団法人日本ゴルフ協会
ハンディキャップ委員長 諸戸 精孝

野村 大会概要(P5)を見ていただければ大体わかると思いますが、この競技ならではの面白さが出るのはBクラスの競技ではないでしょうか。Bクラスに出られるのはハンディキャップ12.5(女子15.5)以上のゴルファー。つまり、ハンディキャップ30.0の方でも出ていただければ優勝できるチャンスがあるのです。アンダーハンディキャップの面白さは、上手な人が勝てるとは限らないところです。参加人数によっては今後、どんどんそういう事が起こるはず。そういうレベルのゴルファーの方にも、競技は楽しいという事をアピールできると思います。

諸戸 そうなんです。自分のハンディキャップをきちんと取得していれば、ハンディキャップの高いゴルファーでも優勝争いができるのが面白いところです。
— JGA公認唯一のアンダーハンディキャップ競技となりますね。

諸戸 実はこの競技にはハンディキャップの普及という目的もあるんです。JGAとしては、ゴルファーすべてのハンディキャップを出すというのが最終目標です。J-sys導入を各クラブにお願いして、そちらは進んだのですが、登録プレーヤーの数は伸び悩んでいます。地区アマに出場するようなレベルのプレーヤーのような競技志向の人の登録が中心です。でも、アベレージゴルファーもハンディキャップを取得すれば、アンダーハンディキャップ競技に出られるんです。正確なハンディキャップを取得して競技をする楽しさを、より多くのゴルファーにわかって欲しい。J-sys導入によってハンディキャップの取得は容易になりましたからね。

— 12月にいよいよJGAが初めて主催するアンダーハンディキャップ競技“JGA杯 J-sys ゴルフ選手権”が開催されます。開催への経緯は？

諸戸 これまでJGAはトップアマ対象の競技しか行ってきませんでした。アベレージゴルファー向け競技はなかったのです。でもゴルフの普及にはそちらも必要です。数年前から開催の話が出ていた競技がようやく実現しました。

野村 スクラッチプレーヤーの競技ばかりではいけない。年齢や実力に関係なく、誰もが同じコースでプレーを楽しめるのがゴルフのいいところ。このことを広め、競技人口を底上げしなくてはなりません。これまでも各地区連盟主催ではこういう形式の大会が行われていたので、その上位選手を集めて全国大会を開こうという事になったのです。

— アンダーハンディキャップ競技といわれてもピンとこない方もいると思うのですが。

野村 自分のハンディキャップをきちんと取得していれば、ハンディキャップの数値が高いゴルファーでも優勝争いができるのが面白いところです。

— 具体的にどんな競技なのでしょう？

財団法人日本ゴルフ協会
競技委員長 野村 惇



— J-sysを利用することで誰でも参加が可能になるのですね。

野村 現在は地区連盟によって参加資格が違うのですが、それでもJ-sysを使えばJGAハンディキャップは誰でも取得できますから。参加人数が増えれば、全国大会の会場を増やして大きくする事もできるでしょう。まずは参加資格を地区連盟に確認してください。ただ、ほとんどの場合、今からJ-sysでハンディキャップを取得してからも間に合うはず。コースレーティングがあるコースでラウンドした、過去2年以内のスコアカードが10枚あれば、ハンディキャップが取得できますから。

— 出場希望者も増えそうですね。

諸戸 増やしたいです。開催コースも、日本オープン、日本アマに準じたいと思っています。

野村 そうですね。これまでも地区によっては大会を楽しみにして下さっていた方も多かったようで、300人以上が(地区大会に)参加しているところもあるはず。その先に全国大会があるという事になれば、もっと広がりが出て来るはず。地区連盟以外にも、都道府県連盟でもアンダーハンディキャップの大会はたくさん行われています。JGAはもっとオープンになればいいと思います。やがてはそちらの市民大会的なものから参加できるようにできれば、と思っています。今年が第1回なので、様子見の部分がありますが、最終的には、競技の門戸開放という事を目指しています。1回目なので正直なところ、やって見なければわかりません。見当もつかないけれど楽しみです(笑)。一番、わからないのは10代の人々がどれほど出てくれるかどうか。40代、50代、60代の方にはとても楽しんでいただけるのではないのでしょうか。

— 地区大会の参加者もかなりのものになるとか。

諸戸 これまでも地区によってはとても人気です。全国8地区からの上位者が全国大会に出場できるのです。

— 画期的なことですね。

野村 競技ゴルフへのハードルが低くなるという事です。
— 競技ゴルファーが増えれば、マナーの普及なども進むのでは。

野村 はい。これまではプライベートのコンペなどばかりだった方が、競技に出ることでマナーだけでなくルールにも厳しくなる。底辺拡大とともに起きているマナーなどの問題への対策という点でも期待しています。

— 他にこの大会を行うことで期待されることは？

野村 普段はみなさん、仲間と楽しくゴルフをやっていると思うのですが競技に出る事によってゴルフ友達が増えていくという事でしょうね。全国大会ともなれば、日本中にゴルファーの輪ができる。そういう広がりができるんです。たとえば、国体などを見ると、他都道府県の人とプレーをする事で本当に皆さん楽しんで、友達を増やしているんです。普段のゴルフではなかなかそういう機会は少ない。多くの人と触れ合えて、つながりが増えたほうが楽しいでしょうか？アスリートゴルファーにも広がりがあったのですが、ゴルフを楽しんでいる方々にも、そういう事をわかっただけでいい。競技だからといって堅苦しく考えず、楽しんで欲しいですね。

— 全国大会開催コースが相模CCというのも魅力です。

諸戸 日本を代表するコースで行われる競技会に参加できるチャンスですから、多くの方に挑戦してもらいたいですね。

〈JGA杯 J-sysゴルフ選手権の流れとその魅力〉

決戦の舞台は相模カンツリー倶楽部。誰もが頂点に立つ可能性あり

いよいよ今年度から「JGA杯 J-sysゴルフ選手権」がスタートします。

この大会は、JGAが主催する初のアンダーハンディキャップ競技です。これまでJGA主催の競技はトップアマを対象としたものしかありませんでしたが、この大会はゴルフの実力や年齢に関係なく、誰もが参加できるもの。つまり、60歳のベテランゴルファーも、ハンディキャップ50.0のビギナーでも、同じコースでプレーをし、ともに優勝を目指す画期的なアマチュアゴルフ大会なのです。まさに、アベレージゴルファーのための大会といえます。

競技は、このハンディキャップと性別をもとに4クラスに分けて行われます(右ページ参照)。まず、

7～9月にかけて、各地区連盟予選会が開催されます。東北6カ所、関東11カ所など、一人でも多くのゴルファーが参加しやすいよう、より多くの場所で開催されることが特徴です。

この各地区連盟予選会の成績上位者は、おもに10～11月に行われる各地区連盟主催アンダーハンディキャップ競技(各地区連盟決勝)に進出でき、そこで各クラス上位4位までに入れば、いよいよ12月1日に行われるJGA杯 J-sysゴルフ選手権(全国大会)に出場できるわけです。

第1回となる今年のJGA杯 J-sysゴルフ選手権の会場は、赤星六郎の処女作にして最高傑作といわれる相模CC。決勝の舞台に、これほどふさわしいコースはありません。

プライベートコンペにはない緊張感と楽しさを味わおう

今大会、この競技ならではの醍醐味が最も出るのは、JGAハンディキャップ12.5以上のゴルファーが参加する男子Bクラスではないかといわれています。

ここで、二人のアベレージゴルファーを例にシミュレーションをしてみましょう。

- ・Aさん－48歳。ゴルフ歴20年ですっかり実力が安定。JGAハンディキャップ16.2。
- ・Bさん－27歳。ゴルフ歴は3年。今が実力も伸び盛りで、JGAハンディキャップは30.5。

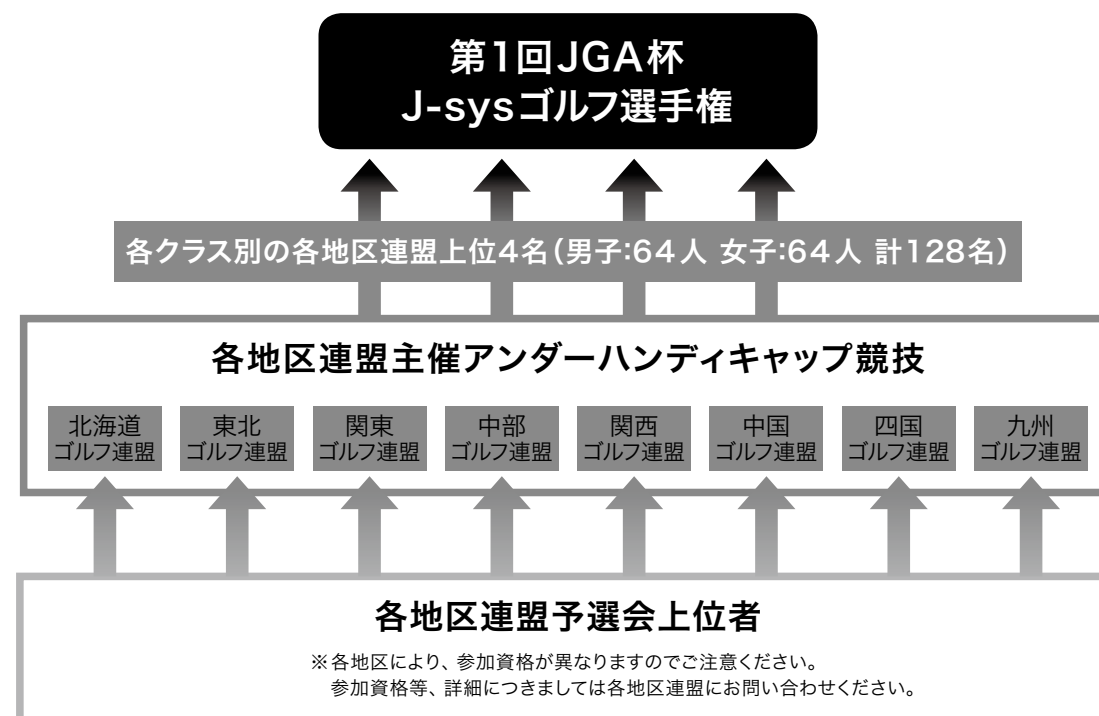
この二人が今大会に出場し、Aさんは実力どおりの88でホールアウト、Bさんは今季最高の出来で97でフィニッシュしたとしましょう。それぞれのハンディキャップを適用すると、Aさんは71.8、Bさんは66.5となります。これにより、AさんよりBさんの成績のほうが上回ることが分かります。

また、成績だけではなく、実力も年齢も違う二人のゴルファーと一緒にプレーすることで、そこにまた新しい出会いが生まれ、仲間が増えていきます。これも本競技の大きな魅力といえるでしょう。

プライベートコンペでは味わうことのできない、公式競技ならではの緊張感と楽しさが味わえる大会。全国のアベレージゴルファーにとって、大きな目標となる大会がついにスタートします。

●J-sysとはJGAのハンディキャップ査定システムのことです。J-sysを導入している全国のJGA加盟倶楽部のメンバー、JGA個人会員等、J-sysによるハンディキャップ取得方法は様々です。詳しくは、<http://www.jga.or.jp/jga/html/j-sys/index.html> をご覧ください。

〈JGA杯 J-sysゴルフ選手権出場までの道のり〉



〈第1回JGA杯 J-sysゴルフ選手権 大会概要〉

日 程：12月1日(水)

会 場：相模カンツリー倶楽部

〒242-0001 神奈川県大和市下鶴間4018 TEL.046-274-3130

参加資格：JGAハンディキャップ査定システム(J-sys)によるJGAハンディキャップ(女子の場合はJGA女子ハンディキャップ)を所持し、次のいずれかに該当するアマチュアゴルファー

- ①男子Aクラス：(JGAハンディキャップ12.4まで)
各地区連盟主催アンダーハンディキャップ競技(男子)のAクラス上位4名
- ②男子Bクラス：(JGAハンディキャップ12.5以上)
各地区連盟主催アンダーハンディキャップ競技(男子)のBクラス上位4名
- ③女子Aクラス：(JGA女子ハンディキャップ15.4まで)
各地区連盟主催アンダーハンディキャップ競技(女子)のAクラス上位4名
- ④女子Bクラス：(JGA女子ハンディキャップ15.5以上)
各地区連盟主催アンダーハンディキャップ競技(女子)のBクラス上位4名

【クラス区分について】

地区連盟主催アンダーハンディキャップ競技への出場後、JGAハンディキャップの数値に変更があり、クラス区分に変更が生じる場合、本競技においては変更後のJGAハンディキャップによるクラス区分に従い出場することとする。

第2回 アジアンアマチュアチャンピオンシップ

カナダカップの舞台、霞ヶ関CCで行われるアジアンアマチュアチャンピオンシップ。裾野が広がるアジアのアマチュアゴルフ界が日本で見られる!

日本に大きなゴルフブームをもたらした昭和32年のカナダカップ。その舞台でもある霞ヶ関CCで、第2回アジアンアマチュアチャンピオンシップが開かれる。その意義を川田国際委員長が熱く語る。



財団法人日本ゴルフ協会
国際委員長 川田 太三

— 様々な団体が一緒になって作るアジアンアマチュアチャンピオンシップ(以下AAC)も霞ヶ関CCで第2回大会開催の運びとなりましたね。

川田 そもそもはオーガスタナショナルゴルフクラブ(以下オーガスタナショナル)、ロイヤルアンドエイシェント・ゴルフクラブ・オブ・セントアンドリュース(以下R&A)がアジアに対して非常に興味を持ってくれた事が大会開催へとつながる第一歩でした。彼らにはゴルフ界のリーダーとして、ゴルフと言うスポーツを後世に伝えなければならないという義務感があるようです。これは、USGAにもいえるし、我々JGAにもいえる事です。その部分で各団体の気持ちは一致しています。これまで招待競技のマスターズには、全米アマ、全英アマからの出場資格はありましたが、アジアのアマチュアの出場権獲得は非常に難しかった。そのあたりをフォローしようという考えもあったのではないのでしょうか。また、R&Aは、USGA傘下の米国、メキシコ以外はすべてその傘下にあるという事もあり、以前からアジアに対して大きな興味を持っていました。さらに

オーガスタナショナルとの間にプライベートクラブとしてのつながりもある。そこで、この大会を作り上げようと思ったようです。これまでアジアには、アジア太平洋オープンアマチュア選手権という試合がありました。それが形を変えて昨年、中国で第1回AACが行われたのは、そういった経緯があったからです。



去る5月17日、APGC、オーガスタナショナル、R&A各担当者が霞ヶ関CCに集結。開催に向けて入念に打合せが行われた。



第1回 アジアンアマチュアチャンピオンシップ

— 第2回大会は日本での開催です。

川田 第1回大会は、前身であるアジア太平洋オープンアマチュア選手権の流れもあって中国で行われました。ゴルフ人口世界No.2で、自国だけでした。プロのツアーもある日本は、これまでも世界のゴルフ界としっかりした付き合いをしてきました。そのおかげで各団体から信頼していただき、日本で、その上、様々な大会の舞台となった霞ヶ関CCでの開催を打診されたのです。

— こうなると、AACは、全米アマ、全英アマに準じる大会と考えていいのでしょうか。

川田 そうです。勝者がマスターズへの出場権、そして全英オープン最終予選への出場権を得られるというのはそういうことです。

— 今後もアジア太平洋圏の国々で開催される?

川田 そうなるでしょうね。そうすれば政治的な問題も絡んでこないし、公平にアジア各国にゴルフを広められます。

— 日本がその中心にいてもいいのでしょうか。

川田 霞ヶ関CCでカナダカップを開催し、日本

が優勝した後、野村駿吉さんがそのお礼もかねて、1957年12月にUSGAを訪ねました。そのとき、アマチュアでも世界レベルの大会を作ろう!と提案したところ、これが受け入れられ、翌年2月のUSGA年次総会を通過。すぐに各国ゴルフ団体に連絡がいき、4月には32カ国が集合。WAGC(世界アマチュア評議会)ができたのです。10月にはセントアンドリュース、オールドコースで第1回世界アマを開催。電光石火の速さで世界のゴルフ界がひとつになったのですが、そのきっかけは日本だったのです。やがて、その中でもアジアが団結し、1963年にノムラカップアジアアマチュアゴルフチーム選手権が始まりました。五輪競技としてゴルフをアピールする際、IOCの規則などでWAGCはIGF(国際ゴルフ連盟)と名前を変えましたが、2016年の五輪にゴルフを復活させたIGFの前身WAGCは、日本の提案からできたといっても過言ではありません。

— 今年、ホスト国としての抱負は?

川田 この大会はアマチュアにとってマスターズ

出場が現実のものとなる大きな意味を持つものです。もし、これに勝ってマスターズの舞台に立てれば、それはそのプレーヤーの将来に影響するような大きな経験になるでしょう。その事を真剣に現実として捉えて、選手達にはがんばって欲しい。

— 特に日本の選手に期待している事は？

川田 今話した事を考えれば、コースをよく知っている日本の選手にとって、今年アドバンテージのあるビッグチャンスです。「優勝すれば、マスターズに出られる」と言っても、どうも日本の選手はまだまだ他人事だと思っているようなところがある。そうではなくて、本気でマスターズへの出場を考えて、いいプレーをして欲しいですね。正直にお話ししますと、アジアの他国では英才教育を行ってすごい勢いでゴルファーを育てている国もあるんです。でも、日本には歴史があります。継続の大切さを形にできるといいですね。これまで、アジア太平洋オープンアマチュア選手権では、永野竜太郎、宇佐美祐樹、藺田峻輔らが優勝争いをして惜敗し

ています。それを考えれば、十分チャンスはあるはずです。また、霞ヶ関CCも、様々な国際大会や日本オープン開催などを経験しており、大会運営としてはNo.1クラスです。コースではアジアの他の国に負けないのはもちろんですが、クラブとしてのホスピタリティもどこにも負けないのではないのでしょうか。



第1回AAC優勝の資格でマスターズに出場したChan-Won Han

— マスターズに出場したアジアのアマチュア選手といえば…？

川田 1950年代にフィリピンのルイス・シルベリアという選手が出場して以来、昨年AAC優勝の資格で出場した韓国のChan-Won Han選手などがいます。

— 今までのお話を聞いていると、日本のゴルフ界はアジアで大きな役割を果たしてきたようですね。

川田 かつてはそうでした。ただ、こここのところは受身になっているような気がします。今年、AACのホスト国となる事をきっかけに、いつも以上に関係者が気持ちを前進させて、アジアゴルフ界のリーダーとなる事を意識しなければならないと思います。それが義務なのです。各国ゴルフ団体と同じように、ゴルフというスポーツをきちんと次世代につなぐ義務がある。それをきちんと考えておきたいのではなく、次世代に伝えること第一に考え、それを共有する気持ちでいなければなりません。



— トップアマチュアの意識が変われば底辺拡大にもつながるのでは？

川田 そうです。アジアゴルフ界のリーダーとして、この大会をしっかりと成功させ、さらにリーダーとしての責任を今まで以上に積み重ねていく事で底辺拡大につなげたいですね。



Defending Champion
Chan-Won Han

マスターズ出場で自分の
ゴルフがスキルアップした！

— AAC第1回優勝の感想を聞かせてください。

ハン 優勝できて非常に嬉しかったです。第1回大会という事もあったし、マスターズ出場や全英オープン最終予選へのチャンスももらったので本当に嬉しかったです。あの時はパッティングがすごく良かったからスコアを作る事ができました。ミッションヒルズGCはこれまで行ったゴルフ場の中で一番大きくて驚いた。それにR&Aとオーガスタナショナルが来ていた事で、さらに大きな大会だという事も認識できました。

[第1回 アジアンアマチュアチャンピオンシップ 成績]

順位	選手名	国名	1R	2R	3R	4R	TOTAL
1	HAN, Chang-Won	韓国	66	69	71	70	276
2	CHUN, Eric	韓国	74	68	66	73	281
3T	Meen-Whee Kim	韓国	75	68	68	71	282
	Peter Spearman-Burn	ニュージーランド	69	68	73	72	282
	Jordan Sherratt	オーストラリア	68	67	74	73	282
8T	徳永 智也	日本	74	72	68	71	285
11T	大田和 桂介	日本	76	68	70	73	287

— マスターズに出場しましたが、そのときの感想は？

ハン 練習ラウンドから人が多くて緊張しました。アマチュアプレーヤーが毎年、泊まるというクラブハウスの屋根裏部屋(クロウズネスト=タイガー・ウッズなどもアマ時代に宿泊したことで知られる)に滞在したんです。ACCの優勝者としてR&Aがいろいろサポートしてくれました。ビッグネームから現在のベストプレーヤーまで集まってくるマスターズという大会に出られた事で、自分のスキルがあがったと感じています。コースについては、グリーンが大きくて速いので、プレーをコントロールしきれませんでした。ピンポジションも難しく…。これからはアイアンショットのスキルを磨きたいですね。それにしてもオーガスタは世界で一番、ビューティフルでデンジャラスなコース。素晴らしいコンディションで迎えてもらいました。

— 自分はどんなタイプのゴルファーだと思いますか？

ハン ロングヒッターと言うわけではありませんが、ショットをコントロールするタイプのプレーヤーだと思います。



— ゴルファーとしての将来は？

ハン 来年、大学に進み、やがてはプロになりたい。韓国でプロになって日本ツアーでプレーし、その後、米ツアーでプレーしたいです。

— あなただけでなく韓国の選手はとても強いですが、その理由は？

ハン たくさん練習しますね。それにスイングをコントロールするのがうまい。さらに心が強いのがその理由ではないでしょうか。

日本でアジアアマチュア最高峰の大会開催!

アジア太平洋ゴルフ連盟、オーガスタナショナルGC、R&Aがひとつになってアジアのアマ発掘に乗り出した。

昨年、第1回大会を中国で行ったアジアアマチュアチャンピオンシップ(AAC)。

今年は舞台を霞ヶ関カンツリー倶楽部に移し、アジアのトップアマが集う。

その経緯を、大会の主催者であるアジア太平洋ゴルフ連盟のコリン・フィリップスが語る。



アジア太平洋ゴルフ連盟

名誉書記 **コリン・フィリップス**

Colin Phillips

25年間オーストラリアゴルフユニオンで専務理事を務め、オーストラリアゴルフの発展に大きく貢献。2005年からはAPGC名誉書記に就任。2007年から2009年の3年間はアジア太平洋地区のR&Aディレクターとして活躍している。

— 今年2回目の開催となるアジアアマチュアチャンピオンシップ(以下AAC)について詳しく教えてください。

フィリップス 元々、アジア太平洋オープンアマチュア選手権という大会が行われていました。さらに、近年、アジアでゴルフが広がり、このことに世界が注目し始めました。そこで、R&Aが、マスターズを主催するオーガスタナショナルと話をし、さらにアジアでゴルフを広めるためのアイデアを考えたところ、こういった形で大会を行おうというアイデアが出てきたのです。それで昨年、中国での第1回大会開催にこぎつけました。

— 今のお話しにもあったように、近年、アジアでのゴルフの広がり方は目を見張るばかりですが、そのあたりについてはどう感じていますか。

フィリップス そうですね。ここ5年ほどは本当にすごいですね。特に韓国、チャイニーズタイペイのアマチュアゴルファーの成長ぶり、これに中国が加わっての広がり方は注目に値します。そのあたりに世界のゴルフ界も興味を持ってサポートしていきたいと考えたようですね。

— AACは、優勝するとマスターズ、全英オープンの最終予選に出場できるという大きなチャンスもある大会で、プレーヤーたちに大きな夢を与えてくれますね。

フィリップス そうです。まだ1回しか行っていない大会なのに、ビッグチャンスができた事はアジアのアマチュアにとって素晴らしい事です。さらに、この大会の結果は、2年前から使われているR&A世界アマチュアランキング※に大きく反映されるので、選手達にも大きなインパクトがあります。当然、プレーにも熱が入ります。この事が、ランキングそのものを世界にどんどん広げて行く事にもつながるのです。

— 昨年の第1回大会も大成功だったようですが、詳細を教えてください。

フィリップス そうです。予想以上の大成功でした。R&Aとオーガスタナショナルの協力の下、プレーヤー達は最高の経験ができたのではないのでしょうか。

— 第2回大会の舞台に日本の霞ヶ関CCが選ばれたのは?

フィリップス まずゴルフを広めるという意味でもアジアの様々な国でやりたいという考えがありました。そ

※R&A世界アマチュアランキング

R&Aが主体となって作られた世界のアマチュアゴルファーのランキング。2007年1月に始まった。基本的な考え方はプロの世界ランキングに準じている。

ランク対象競技となるにはいくつかの条件があるが、対象競技は世界各国にあり、ランク入りするためにはそこで上位に入る必要がある。

各競技は出場選手のレベル(これも同ランキングにより決定される)によってA~Fまでのカテゴリーが決められ、上位選手にポイントが与えられる。

日本でのアマチュア競技としては日本アマや日本オープンをはじめ地区オープンなど30試合程度が対象となっている。

Rank	Player	Country	Points
1	Peter Uihlein	USA	1327.63
2	Jin Jeong	KOR	1290.00
3	Patrick Reed	USA	1220.00
4	Andrea Pavan	ITA	1198.57
5	Bud Cauley	USA	1175.41
6	Kevin Tway	USA	1173.91
7	Russell Henley	USA	1171.67
8	Romain Wattel	FRA	1165.28
9	Scott Langley	USA	1151.35
10	Harris English	USA	1142.11
11	Eugene Wong	CAN	1117.24
12	Henrik Norlander	SWE	1112.50
13	James Byrne	SCO	1111.67
14	David Lingmerth	SWE	1105.66
15	Jonathan Randolph	USA	1102.13
16	Chris Williams	USA	1102.00
17	Paul Cutler	IRL	1088.64
18	Bhavik Patel	USA	1079.25
19	Rashid Khan	IND	1078.75
20	Ben Campbell	NZL	1071.43
109	藤本 佳則	JPN	900.00
242	浅地 洋佑	JPN	812.50
419	大田和 桂介	JPN	720.00
786	宇佐美 祐樹	JPN	572.09
946	伊藤 誠道	JPN	516.28

(7月18日現在)

の中で、日本のコースは素晴らしいことが挙げられました。それに霞ヶ関CCはこれまでも何度か国際競技を開催しており、コース側も万全の準備を整えています。それで第2回大会の舞台に選んだのです。

— 大会の様子は世界各国にも伝えられるのでしょうか。

フィリップス そうです。今年の世界150の国と地域に2時間に渡ってテレビ中継されます。さらにインターネットでも配信されるので、選手達のプレーぶりは世界中に伝わりますね。

— そうなると、更なるパフォーマンスに期待がかかります。

フィリップス はい。だからこそ、優勝者には欧州ツアー、ドバイ・デザート・クラシックへの出場権も与えられる事になりました。これからもどんどん、出場権の得られる試合が増えるのではないのでしょうか。でも、選手達には試合を楽しんで、自分のゲームをして欲しいですね。出場選手の中にはその後、プロに転向したり、メジャーの舞台で活躍する選手も出て来るでしょう。そうなった時に振り返って、AACがあったから今があると思ってくれるようになれば最高です。



第1回大会は昨年10月に中国・広東省にあるミッションヒルズGCで行われ、30の国と地域から120名が参加した。

— それにしてもR&Aやオーガスタナショナルという歴史と権威のある組織がかなりアジアへの興味を持っている事がはっきりとわかりますね。

フィリップス ええ。本当に興味を持っています。だから大会に協力してくれているのです。事前に準備のためにたくさんの人を送り込んで下見もじっくりしています。それはやはり、ここ5～6年のアジアの男女アマチュアの著しい成長をしっかりと見ているからです。もちろん中国、インドの成長は目を見張るものがありますが、他の大きな国も小さな国も、それぞれゴルフは増え、レベルはどんどん上がっています。大会主催の我々アジア太平洋ゴルフ連盟 (APGC) は、元々日本も含めた7カ国が集まってできたのですが、今ではフィジー、パプアニューギニア、カンボジア、ラオス、ベトナム、モンゴル、カタール、バーレーンなどの中東…。全部で34の国と地域がメンバーとなるほどです。ここ5年間で一気にメンバー国が増えましたね。各国からの参加選手がこの大会を通じていい経験をして、将来の糧にして欲しいです。

— APGCについてももう少し聞かせてください。

フィリップス 最初は日本も含めた数カ国がメンバーでした。各国がナショナルオープンをもっと広めていきたいという事で活動していました。80年代半ばにできたアジアゴルフツアーも、元はAPGCからです。1979年にそこに環太平洋の国々が加わりました。現在の会長は韓国、副会長はオース



霞ヶ関CCで行われた打合せの様子。

トラリア、チェアマンはマレーシア、理事国は日本、インド、パキスタン、ニュージーランド、タイ、中国と、様々な国のメンバーが集まって運営しています。特に日本とは関係が深く、前会長も日本の方でしたし、JGAは日本オープンやアジアパシフィックパナソニックオープンを主催しており、APGC加盟団体からこれまでも選手がたくさん出場しています。

— APGC、オーガスタナショナル、R&A。3つの組織が一緒になって大会を運営するとすると、それなりに大変だと思うのですが…。

フィリップス でも、方向性は同じなんです。アジアのアマチュアを世界に紹介したい。だからいい関係ですよ。6月にこの大会の準備で会場の霞ヶ関CCに一度、集まった時にも我々はもちろん、オーガスタナショナルから10人、R&Aからも3人と大勢のスタッフが来てくれています。お互い、最高の形で大会を成功させたい。だから、いい関係のパートナーシップを結んでいるんです。



— フィリップスさんもオーストラリアの方ですよ。

フィリップス 私は約30年間、オーストラリアオープンのトーナメントディレクターをするなどゴルフとは長いお付き合いをしています。そんな縁で、APGCの名誉書記も務めており、日本とは25年ほど良い関係を築いています。ゴルフが好きだから続けているんですよ。



霞ヶ関カントリー倶楽部
理事長 神田 光三

カナダカップの舞台、霞ヶ関CCがアジアアマ最高峰の大会に万全の準備

みなさんを心から歓迎したいと思います。日本のゴルフブームをもたらしたきっかけの昭和32年(1957年)カナダカップの舞台としても知られている霞ヶ関CCで、アジアアマチュア最高峰の試合が行われるのは名誉なこと。オーガスタナショナルGC、R&Aと言う世界的な組織と一緒に試合を運営するということで、対応にも万全を期しています。日本にも松林に囲まれた素晴らしいコースがあるということを世界にも知っていただけるチャンスでもあります。ここからメジャーの舞台へと羽ばたいていく選手が出ることも考えるとワクワクします。東西両コースで、日本オープン計4回、日本女子オープン1回、さらに40年間日本ジュニアゴルフ選手権を開催している経験もあり、十分な準備を整えてみなさんをお迎えします。また、近隣の学校などに働きかけてボランティアを集めたりという事もすでに始めています。



霞ヶ関CC 西コース 16番ホール